

来年4月開校
「東予総合高」
校章・校歌決まる



2026年4月に開校する東予総合高の校章(右)と校歌

養蚕業や自然モチーフ
地域と関わる学び表現



西条市の小松、丹原、東予の県立3高校の再編統合で、2026年4月に開校する東予総合高の校章と校歌が決まった。校章には、地域の桑の葉と繭をあしらった豊かな自然をつづるなど、地域性を反映し

たものとなっている。校章と校歌の作詞は、24年9～10月に3校の生徒と教員から募集。校章74点、作詞6点の応募があり、ともに教員の作品が選ばれた。校章のモチーフに使われた桑と繭は、3校の位置する旧周桑郡で養蚕が盛んだったことに由来する。近代産業の象徴である製糸業の発展に地元が貢献した歴史にちなみ、目標に向け未来を創造する学校のコンセプトを表現した。

の石鎚山のような高い志を持ち、瀬戸内海のように広い心で人を支える大切さを伝える内容。作曲は、17年開催のえひめ国体の入場曲「オレンジの風に吹かれて」を手がけた愛媛大教育学部の井上洋一教授が担当した。東予総合高は農業、工業、家庭の三つの専門学科と総合学科を併設。東予高の井原進一教頭は「地域や地元企業と関わり合いながら学ぶのが特徴の一つ」と話した。

(伊藤義樹)

東予総合高の校章や校歌に込められた思いを説明する東予高の井原教頭